



那賀防火管理協議会会報

第 34 号

編集・発刊
那賀防火管理協議会
事務局
(那賀消防組合内)

消すまでは

出ない行かない 離れない

春
の全国火災予防運動

3月1日～3月7日



備えよう!
住宅用
火災警報器

那賀消防組合消防本部
那賀防火管理協議会

剛力彩芽

会長あいさつ

那賀防火管理協議会

会長 北田 信幸



早春の候、那賀防火管理協議会会員の皆様方には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素から、会員事業所におきましては、防火管理並びに防災体制に万全の取り組みをいただき、また、当協議会の運営のため格別のご理解とご協力を賜っており、誠に心から厚くお礼申し上げます。

東日本大震災からまもなく二年が過ぎようとしています。未曾有の大災害からの復興は容易ではありません。一日も早く元の姿に戻られますよう願うばかりです。そうした中、今後三〇年間に起こるであろう南海地震の発生確率が、七〇%から八〇%に引き上げられ、地震に備えた被害軽減対策がより切迫しています。

協議会のモットーは「自分たちの職場は自分たちが守る」であり、自主防火・防災推進団体として関係事

業所における自主防火・防災体制の更なる充実強化と、防火防災意識の高揚に努める所存です。

三月一日から七日にかけて全国統一標語「消すまでは 出ない行かない 離れない」を合言葉に、春季火災予防運動が全国で実施されます。消防関係機関と緊密な連携のもと、災害のない安全で安心できるまちづくりを目標に今後も各種事業を推進して参りたいと存じますので、各段のご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に会員事業所のますますのご隆昌と皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

消防長あいさつ

那賀消防組合消防本部

消防長 林 照康



早春の候、那賀防火管理協議会会員の皆様方には、日々御健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。

平素は、消防行政、特に防火防災関係に格段のご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、七月に九州北部で、八月には近畿中部を中心に局地的な豪雨のため多くの人的・物的被害が発生したところです。和歌山県内でも六月に梅雨前線等による記録的な大雨により、河川氾濫等の災害が発生しました。

幸いにも当消防組合管内では大きな災害に見舞われておりませんが、災害が発生すると人命や財産に多大な影響を及ぼすため、常日頃から細心の注意を持って安全確保に努めていくことが重要であります。

各種災害から貴重な生命と財産を守るためには消防機関はもとより地域ぐるみでの自主防災組織の確立、また事業所においては自衛消防組織による防災体制を構築し、市民、事業所、消防機関が一体となった消防防災体制づくりが必要不可欠であります。

このような意味からも、皆様方の活動は大変心強く、今後、更なるご尽力により自主防災体制の充実強化が図られますとともに、消防行政になお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴協議会のごますますのご発展と会員皆様方のご健勝を心よりご祈念申し上げます。

この一年を振り返って

四月

定期総会を開催

岩出市宮ホテルいとうで、平成二四年度定期総会を開催（四三事業所から四八人が出席）併せて平成二三年度優良団体表彰が行われました。

受賞事業所

▼医療法人殿田会 殿田病院▼ホテルいとう▼医療法人彌栄会やよいメディカルクリニック▼医療法人宮本会 紀の川病院

六月

消防組合防災ひとつくり事業の救急標語への応募協力

八月

普通救命講習会

消防本部で、AEDを使用しての普通救命講習会を開催（一六事業所から五六人が参加）



九月

▼集団救急事故総合訓練の参加

第一〇回那賀消防組合集団救急事故総合訓練で倒壊家屋からの救出、救護訓練及び消火訓練を実施（二九事業所から六七人が参加）



▼大阪ガスエネルギーフェア見学

九事業所一〇人参加。事業所において今後のエネルギーを考える良い研修となりました。



一〇月

▼第一一回消防操法大会開催

別載

十一月

▼秋季火災予防運動に伴う実施要綱作成（七四事業所）

▼役員視察研修

別載

十二月

▼防災ひとつくり事業表彰式

一二月八日岩出市民総合体育館で、中芝岩出市長・中村紀の川市長をはじめ多くの御来賓・関係者が出席して盛大に開催されました。救急標語には、二三一八点の募集があり、当会からも毎年多数応募いただいております。今回入選された方々は次のとおりです。

【最優秀賞】

「応急手当 正しい知識と実行力」

富田病院 紙谷 真司



【優秀賞】

「AED 覚えて救える 尊い命」

日本ピローロック株式会社

松浦ちず子



「そばにいる あなたの勇気で 助かる命」

日本ピローロック株式会社

森本 恭弘

【秀作】

▼デュプロ精工(株)菅原史典

【佳作】

▼バンドー化学(株)加賀 誠

・仲岡実佐 ▼やよいメディカルクリニック・脇田洋子 ▼稲穂会病院・橋本知也 ▼日本ピローロック(株)・石井智恵 ▼(株)台和・宮本建雄

【入選】

▼紀の川市役所・増田篤則・豊田啓吾 ▼バンドー化学(株)・東口勝江・前垣内秀起・南 典子・上北芳久 ▼やよいメディカルクリニック・吉村由紀子 ▼やすらぎ苑・西

端礼子・福村久美子・中山太郎
以上（敬称省略）

▼地震災害時の救出、救護訓練

紀の川市花野、紀ノ川河川敷グランドで実施
（二三事業所から六一人が参加）



一月

▼那賀消防組合消防出初式に参加

紀の川市桃山町段、桃山グラウンドで実施
（二八事業所から一四四人が参加）



三月

▼会報三四号発行

役員視察研修を実施

一月一八日・一九日の二日間、協議会役員、北田会長以下事務局も含め一三名が参加しました。今回の視察研修場所は、東近江行政組合と日本庄延工業(株)滋賀工場でした。

東近江行政組合は滋賀県びわ湖東部(東近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町、愛荘町)二市三町で組織する消防組合で、管轄人口二五万五千人、面積七六六㎦、職員数三百二名と那賀消防組合の約三倍の規模を誇る消防組合です。

平成二四年十月には、一〇年前に視察研修でお世話になった愛知郡広域行政組合が、この東近江行政組合に吸収合併され、滋賀県東部の広域消防体制が確立されました。研修では、新設された高機能指令センターの見学や、当協議会と目的を同じくする東近江防火保安協会(会員数一、〇七七)の活動内容について、詳しく説明を受けた後、活発な意見交換がなされました。特に防火保安協会の活動は、各都会と支部組織を中心に初期消火技術大会をはじめ様々な防火防災普及啓発活動に積極的に取り組んでおられ、多くの学ぶべき点がありました。近江商人のふるさとでもあるこの地方独特の伝統と文化を受け継いだ世代が地域社会の中で築き上げてきた防火防災意識の強

さが、この会員数の多さに表れています。



次に訪れたのは、東近江市の工業団地内にある日本庄延工業(株)滋賀工場で、アルミニウム圧延業界特にアルミニウムスラグで国内シェア八〇%を占める製造工場です。社長自ら出迎えて頂き、心温まる歓迎を受けました。

加工しやすい金属という特性から自動車部品からアルミ缶、一円硬貨など生活のあらゆるところで使用されているアルミニウム。この製品化される前のアルミニウムの製造工程(インゴット(アルミニウムの塊)から溶解↓圧延↓小さな塊(スラグ)を見学しました。摂氏七〇〇℃で溶解したアルミニウムが圧延されていく工程をまじかに拝見して、製鉄所を見学しているような感覚になりました。



研修終了後は、晩秋の紅葉で有名な湖東三山の一つである「百済寺」を見学して帰路につきました。

工場内は安全第一、そして品質管理が徹底されており、黙々と作業に取り組み従業員の様子に、日本の製造業は世界に誇れる高い技術力と経験によって支えられていると実感しました。見学後は、消火器メーカーと共同開発したアルミ製消火器(写真)の説明があり、改めて消火器の仕組みや改正された点検基準を学びました。



▲紀和化学工業員志川工場チーム

今年で第二回目を迎える消防操法大会が去る十月二二日(月)紀の川市打田若もの広場で開催され、三事業所五六チームが消火技術を競いました。中でも、紀和化学工業員志川工場チームは、平成二〇年から五年間で各種目第一位を記録し見事グラインドスラムを達成されました。本当に素晴らしい記録で心よりおめでとうございます。

紀和化学工業(株)員志川工場が第一回消防操法大会においてグラインドスラム達成!!

大変有意義な視察研修でした。会長はじめご参加いただきました役員そして参加としてご同行頂きました南出消防本部次長様お疲れ様でございました。



▲屋内消火栓操法（2号栓）の部



▲屋内消火栓操法（1号栓）の部

記録の裏には、雨天の中、雨合羽を着て何度も練習に励むチームの姿がありました。指揮者の塩崎氏は、「消防操法は、単に消火技術を向上するだけではなく、チーム全体の規律、節度が求められています。私は消防団員の経験から規律、節度は理解しているが、経験のない社員にそれを理解させていくには反復訓練が必

要であり、それができるかがカギであると考えます。」と述べられています。消防操法大会において消火技術が年々向上しておりますが、塩崎氏の発言には奥深いものが感じ取ることが出来ます。参加されました各チームの皆様御苦労さまでございました。また、来年の大会に向けて頑張ります。



▲屋外消火栓操法の部



▲消火器操法の部

成績結果

【屋内消火栓操法1号栓の部】

- ▼第1位 バンドー化学(株) 和歌山工場
- ▼第2位 デュプロ精工(株) 和歌山工場
- ▼第3位 (株)メイワ
- ▼特別賞 日本ピローブロッック(株) 和歌山工場

【屋内消火栓操法2号栓の部】

- ▼第1位 和歌山ノーキョー 食品工業(株)桃山工場
- ▼第2位 医療法人共栄会 名手病院
- ▼第3位 岩出市役所
- ▼特別賞 医療法人彌栄会 介護老人保健施設やよい苑

【屋外消火栓操法の部】

- ▼第1位 紀和化学工業(株) 貴志川工場
- ▼第2位 岩出市役所
- ▼第3位 紀の川市役所
- ▼特別賞 デュプロ精工(株)

【消火器操法の部】

- ▼第1位 社会福祉法人涉久会 特別養護老人ホームももの里
- ▼第2位 三洋電機(株) エナジー社
- ▼第3位 那賀衛生環境整備組合
- ▼特別賞 紀の川市役所

消防署からのお知らせ

【消火器の規格 点検基準の改正】

近年、消火器を点検せずに長期間放置された古い消火器を操作、廃棄処理しようとした際に消火器が破裂し、死亡又はケガをする事故が多発しています。

このようなことから、事故防止の安全対策として、消火器規格省令と点検基準が改正され施行されています。わかりやすく説明しますと、平成二四年一月一日からは、新規格の消火器を設置することになります。

Q 新規格の消火器とは？
A 製造年月日が二〇一一年以降の消火器です。旧消火器との違いは、絵表示が国際規格に準じた絵表示に変わりました。

(図一)
使用期限が(製造年から一〇年)明確になり、表示されています。
Q 旧消火器はどうなるのですか？
A 製造年月日から一〇年経過している消火器は、耐圧試験(水圧検査)を受け、合格すれば使用できますが、費用面から買い替えを推奨します。また、平成三三年一二月末で失効(使用不能)になりますので、計画的な消火器の交換をお願いします。

